

した。しかし、国際会議と調査にほとんど海外出張の教授からはなぐり書きの返事をもらうのが精一杯で、研究が頓挫しました。

秋になり有力な情報が得られないDさんは、ある学会誌でパンダをクローン化して保存しようとしている中国科学院の陳教授の研究をみつけます。ここに突破口を見つけたかに見えましたが、実は中国科学院のセキュリティレベルは非常に高く、研究者とのコンタクトどころか研究所の住所すら機密事項でした。何とか手がかりを・・・と必死に探し、ついにつくば市在住の中国人研究者から連絡先を知ることができ、Dさんは英文で質問事項を手紙にしました。数週間後、返ってきた返事は「国家機密なので教えられない。」。もう論文締切直前でしたので、結局この研究は困難であったというまとめにするしかありませんでした。Dさんは、しかし研究の面白さは体験でき、大学も研究しやすい東京大学理科1類に進学しました。

このような、先輩の“失敗談”をC君に話し、困難なテーマだからやめた方がいいと説得しましたが、C君の決意は固くこのテーマでスタートしました。2年前と異なり、資料は随分増えておりプロジェクトの概要や直面している問題点、どのような方向に進展しているかは詳細にわかりました。しかしC君は剣道部の副主将でもあり（本校の剣道部は全国レベルです）、高校2年の春夏秋は大会遠征の連続。研究者への訪問調査や資料収集に時間を割くことが難しく、悶々としながらも自らの仮説を検証することができず、本人としては納得のいかない研究となったようです。彼もDさん同様、大学でより深い研究をすることを希望し東京大学理科2類に進学しました。

田代 淳一

たしろ じゅんいち

茗溪学園中学・高校 教務部長



化学の教師です。茗溪学園では前向きで明るく逞しく積極的な青年が育っています。

「有名大学に行きたいから勉強する」のではなく、「中学・高校時代にいろいろな事に挑戦し、失敗し、考え、自分を探して、自分で自分の将来をみつけ、自分で歩いていく。その方向が地球を救い、人類の未来を拓く方向であってほしい。」そう考え、支援するのが茗溪学園の教員の役割です。

海外生・帰国生が自分の力で自分の未来を切り拓いてきた経験はここで開花します。これまでたくさんの帰国生が、夢を追いつつ進学していく姿を見て応援してきました。

よろしくお願いします。

個人課題研究は茗溪 Study Skills の総決算という面がありますが、今回紹介した例のように自分が興味を感じた分野を実際に研究体験してみることで「自分が本当にこの分野に興味適性があるのか」を試行してみるという側面もあります。この体験を通して、ますますこの分野に惹かれる生徒もいれば、「自分はこの分野に向いていない」と方向転換する生徒もいます。勿論、この転換を容認します。自分の進みたい方向が見えた生徒には、どの大学のどの学部のどの研究室でそれが学べるかを1ヶ月かけて探させます。本校の進路資料室には全国の大学のシラバスが揃えてあります。みつけたら進路指導部に報告し、進路指導部は公文書でその研究室に訪問依頼をし、生徒は実際に訪問し、この大学で学びたいかどうかを自分の目で確認していきます。

文部科学省から総合学習が提唱され、多くの高校が生徒に大学に訪問して進路意識を高める取り組みを始めました。中には単なる興味半分で多忙な研究者を訪問させる高校もあるようで、ここ数年茗溪の個人課題研究で訪問依頼をしても迷惑そうな反応が来たり、断られることも増えてきました。私たち指導担当としてはそういう興味半分の訪問とは質が違うことを伝えるため、生徒自身の手紙の質問内容をより深く、しっかり調べ考察し仮説を設定させた上で作成できるように指導しています。今年の高校2年生でも私が担当している中にもすでに何人も「これは大学院レベルの研究だね」と大学教授から評価していただいている生徒がいます。

また機会があればご紹介できます。

茗溪学園中学校高等学校

〒305-8502 茨城県つくば市稻荷前1-1

TEL. 029(851)6611 (代) FAX. 029(851)5455

www.meikei.ac.jp

編集長から一言

前回に引き続き、田代先生ご自身が指導された高校2年生の個人課題研究の事例報告です。

前回も述べましたが、中学1年生から繰り返し指導されてきたスキルが身に付いていてこそ示せる課題研究の成果です。

他の学校でも「高校生の卒業論文」は見られますが、アメリカの現地校のレポート程度のもので大半です。このレベルの事例は、現地校でも教科外の自主研究として時として見られる程度です。高校2年生全員が必修科目として課されていることが、なんといっても、驚きです。

さらに、特筆すべきことは、個人課題研究が4年間のスキル・トレーニングの成果を問う「研究」になっていることです。段階的に、継続的に、全ての教科を通して、指導されているのです。私の知る限り、日本で唯一の、現地校での指導に似た、スキル・トレーニングを行っている学校です。皆さん、他にこんな学校があれば教えてください。

田代先生、文科系の個人課題研究の事例も、機会があれば紹介を。